

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(東員町)の概要

6月9日(日)に、東員町役場で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、東員町で農業及びその振興に従事する8名の皆さんにお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政に期待していることなどについて、ご意見などを伺いました。なお、今回は東員町の水谷町長にもご同席をいただきました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見等をいただきました。

- 有限会社で農業を営んでいるが、これからも、雇用を生む農業をやっていききたい。そのために、耕畜連携¹、農福連携²、6次産業といったことに取り組んでいる。農福連携の取組では、町内の「いずみ作業所」(知的障がい者通所授産施設)と契約し、就労支援を行なっている。6次産業としては、米粉入りのクッキーを製造販売している。
- 家畜市場などで畜産農家の声を聞き、そのまま農家に伝えるなどしている。様々な人の意見を直接聞きながら、国、県や町などの協力を得て、頑張っていきたい。周りから励まされたり、要望を受けるなど頼りにされることや、感謝されることがとてもうれしい。
- 農福連携に取り組むにあたって、福祉分野では困難もあったが、色々な人から教え

¹ 耕種農家と畜産農家との連携。例えば、耕種農家が畜産農家に家畜飼料として藁を提供し、畜産農家から耕種農家に肥料として堆肥を提供するなど。

² 障がい者の就農など、農業と福祉分野との連携。

てもらいながら、自分たちも改めて農業の作業を見つめなおすことができた。一年をかけて、作業所の皆さんが作業をできるようになったときや、「この仕事が好きなんだ」と言ってくれたときが、一番うれしい。これからの夢は、障がい者の雇用ができる農業。色々な人に助けてもらいながら、取り組んでいきたい。

- 大豆をいずみ作業所に納めて、そこで味噌作りをしてもらっている。その味噌はとても好評で、和菓子屋さんが味噌まんじゅうに使ったりもしている。
- 食育の場で、町内で作られている「あやひかり」の小麦粉と、市販されている外国産の小麦粉とを食べ比べてもらおうと、味の違いに驚かれる。また、驚きの後には「どこで買えるの」と尋ねられる。「気づき」から「購買」まで繋がっていくことが、すごく嬉しい。
- 田植えの体験教室の講師をさせてもらったが、子どもを田植え機に乗せてあげたらすごく喜ばれた。
- 施設園芸でブルーベリーを作っているが、収穫に手間がかかるということもあり、道の駅などにポットのまま持ち込んで、収穫体験をしてもらいながら販売するといったことも始めている。その他、苺も作っているが、県外のスーパー等からも引き合いがある。
- 稲作農業には「伝統」があり、伝統には守ることがたくさんある。続けていくためには、変えなければいけないこともあるが、変えようとする先輩方からの反発もあり、何かを変えるということはすごく難しいなと思う。温故知新という言葉のとおり、先輩の良いところは引き継ぎながら、変えるべきところは変えていきたいが、少しやりづらさを感じている。
- 若い人たちに農業をやってもらうには、他の産業から農業への雇用をもっとアピールすべきでは。国、県や町もその方向へ進めてもらおうと、若い人が農業の方へ入ってこれるのではと思う。
- 農業をするには大型機械や機械倉庫が必要になるが、それには莫大な金額がかかる。そのために、やりたくてもやれない人が多くいるということを実感している。また、土地を借りるにあたって、自分で直接行っても貸してもらえない場合もあり、町が間に入ってもらおう等の形にしてもらえれば、動きやすくなるのではないかな。夢をもって、農業をやりたいと思っても、お金がなくてできないという現実がある。
- 農地を見渡すと、今、麦が最盛期になっているが、それが麦だと分からない人が大半。「知らない」ということは、ある意味では大きなマーケットになり得るのではないかな。

これからは「見せる農業」。例えば農家民泊というものがあるが、三重県では保健所のチェックが厳しく、やりたくてもなかなかできない。確かに「安心」は必要だが、もう少しハードルを落とすと、もっと活性化するのでは。

- 若い担い手が全国の農業関係者に会って色々アドバイスを受け、それを実行していこうとしても、大型機械の部品を付け替えたりするにはお金がかかるため、それに見合う成果が出るかどうかという不安が生じてしまう。
- 自分たちが農業を始めた 30 年前には、先輩たちがやっている農業を見て、自分もやってみようかなと思うような形があった。しかし、今、若者が自分たちの仕事を見ていて「やろうかな」という気持ちになってくれているかな、という思いがある。

農業がもう少し大きなものになってこないかな、と若者に期待はしているが、もう少し自分たちが農業の魅力を発信していれば、という後悔は少しある。

（水谷町長）

- 農業で作ったものを売る場所が、東員町内に要っている。農業を基盤としたまちづくりが必要。人に来てもらって、町でできたものを食べたり買ったりしてもらえなければ、農業者がなかなか儲からずに、持続可能にならない。6次産業というのはそういうことだろうと思う。
ところが、そのようなまちづくりをしようとしても、土地に様々な規制がかかったりしているので、規制を少しでも緩和するために、県や国の協力をもらいたい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

- 農家民泊に関する保健所のチェックについては、一定の衛生ルールはありながらも、過剰にやる必要はないと思うので、現状を点検しながら、マーケットが広がるようなことを研究してみたいと思う。
- 商談会などでバイヤーに感想を聞くと、「商談が続かない」という意見がよくある。値段だけを言って、自分たちが作っているものの良さや、PR ポイントなどをしっかり説明できないということがあるようである。せっかく作っていただいている良い物を販路に乗せていくためのPRの仕方、コミュニケーションの仕方なども含めて、サポートしていくことが大事だなと思う。
- 農業を基盤としたまちづくりに関わる土地規制の話については、優良農地を農業以外のことで開発するというのであれば、守るべき価値の対立という意味で理解できなくもないが、農業を振興するための規制によって農業が振興できないというのは意味不明なので、よくチェックしていきたいと思う。



【東員町で農業に従事する皆さんとは】

東員町は、員弁川の美しい水に恵まれた地域で、自然豊かな肥よくな土地では様々な農業が行われています。

米、麦、大豆、イチジク、イチゴなどを生産している方、食育講座の講師などをされている方、東員町の農業を語る上で欠かせない方など、今後の農業を担う方々です。